

まつぎきなかざと  
市原市 松崎中里遺跡

松崎中里遺跡は養老川右岸の河岸段丘上に位置し、弥生時代から近世にかけての集落・墳墓などが高い密度で分布する広大な遺跡です。今回は県道の拡幅に伴う調査なので狭く細長い調査範囲ですが、古墳時代と奈良・平安時代の集落や中世から近世の屋敷跡などを検出しています。

注目される点として、奈良・平安時代の柱穴跡が 100 基以上検出され、最大のものは直径約 1.3m、深さ約 1m ありました。調査範囲が狭いため確定はできませんが、東西方向に 3 棟以上の建物が並び、建て替えを含めて多くの建物があったようです。規則性のある建物配置や柱穴跡の規模などから、役所のような性格を持つ建物群の可能性ががあります。



調査区全景(北西から)



南西角付近



南東側から

(白線は柱間4間以上の大型建物)